

	横浜市音楽研究会 研究部 器楽 部会記録				
日 時	令和3年 11月10日(水)				
部会名	研究部 器楽部会			主任	加藤 紫乃
参加数	8名	司会	加藤 紫乃	記録	上石 千鶴
研究 内 容	研究部テーマ				
	音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって、協働的に学ぶ子どもの姿を目指して				
	器楽部会テーマ				
	楽曲の特徴や楽曲に合った音、音色 ^{おんしよく} をみつけ、音や音によるコミュニケーションを通して、自分の考えを広げ、豊かな表現を目指す器楽活動				
	◎12月授業研究会指導案検討				
	授業者：横浜市立谷本小学校 南澤 香里 先生				
	教材：「ルパン三世のテーマ」 大野 雄二作曲・柊 ゆきえ編曲				
	〈第3回指導案検討〉				
	○前時までの様子（動画）				
	曲との出会い。フルスコアの提示。→曲の仕組みを学習するため。				

- ・8日（月）の様子（動画）第1回目の録音から
 - C:ずれていた。音の大きさのバランスがよくない感じがした。聴こえない楽器があった。
 - T:目立つ楽器ばかり聴こえていたけれど、それでよいのかな。
- ・スコアでパート同士の関係を確認する。
 - T:2回目の演奏で気を付けたことは何でしょう。
 - C:音の大きさに気がつけた。合わせた。ずれないようにした。
- ・10日（水）の様子（動画）イントロからアに入るところまで
- 討議
 - ・スコアの提示の仕方がよかった。子どもの思考に合わせた提示だった。
 - ・タイミングがずれているのは、誰に合わせていて、どのようにずれると言っていたのか。
 - ・子どもがどのように演奏したいと思っているか。
 - ・同じ動きの楽器を近くになるように配置している。円形に配置。指導者は中心と考えている。
 - 配置の工夫が必要
- 後藤先生より
 - ・それぞれのパートがどの役割をしているのか。
 - 楽譜から読み取れることを、これまでの学習を生かしながら、演奏の仕方を考えていく。
 - 拍の流れをつくっているパートはどこなのか。拍を共有することが大切。
 - 曲の決め所では、拍がそろっている。
 - ・曲との出会いで、全パートを経験させたい。旋律を口ずさむことでもよい。
 - 「この曲はどんな曲で、どのように合わせればよいのか。」ということを考えやすい。
 - ・何のために聴き合うのか。目的によって違う。
 - ・イからウへ変わる部分。曲想が変わる部分のどこを聴いてどのように演奏すればよいか。
 - それを楽譜や曲から読み解いていく。
 - ・イの部分もずっと同じ演奏でもいいかな。→変化した部分に気付かせる。アに戻るための準備。
 - ・「合った」「そろった」実感をもたせたい。速度を遅めにして、「合った」体感をさせる。
 - ・音楽専用のICレコーダーを使う方法もある。自分では聴こえない音を確認するために使用できる。
 - ・子どもの発言や演奏から、学びをつなげていくことが大切。

